

○事業所名	こどもサークル結城（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日		2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活リズムや身辺自立などの健康・生活面を基盤とし、遊びを通じた身体活動による運動・感覚への働きかけを行いながら、成功体験を重ねることで認知・行動の発達を促し、発達段階に応じた声かけや関わりを通して言語・コミュニケーション能力の育成を図るとともに、小集団活動の中で他者との関わりを経験することで人間関係・社会性の基礎を育む支援を行っている。	日々の支援の中で、児童の小さな変化や成長を丁寧に捉えることを意識している。	発達評価や支援成果を客観的に示せる評価方法の導入や事業所全体で共有できる療育方針・支援モデルを整理する。
2	個別支援計画に基づき、一人ひとりの発達段階に応じた支援を行っている。また、乳幼児期の発達特性を踏まえた早期支援の視点を重視した療育を実施している。	遊びを通じた関わりの中で、発達課題に自然にアプローチする支援を行っている。また、成功体験を積み重ねられるよう、環境設定や声かけを工夫している。	専門職による助言及びケース検討等の定期的な研修や定期巡回を実施する。
3	保護者との日常的なやりとりを通じ、家庭と連携した支援を心がけている。また、就学を見据えた関わりを意識し、集団参加や基本的な生活習慣の獲得を支援している。	職員間での情報共有を行い、支援の方向性が大きく崩れないよう配慮している。	就学先や関係機関との連携体制を体系化する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の成果について、定性的な把握が中心となり、客観的な評価指標による可視化が十分とは言えない。	発達支援に関する統一的な評価指標・評価方法が十分に整備されていない。	発達領域ごとの共通評価視点・記録様式を整備する。
2	支援のねらいや専門的視点について、保護者への説明が十分に共有しきれていない場面がある。	日常の支援説明が口頭中心となり、資料化が限定的。	保護者向けに支援内容・ねらいを明示した説明資料を作成する。
3	就学を見据えた移行支援について、体系的な整理が十分ではない。	園や関係機関との連携が個別対応に留まっている。	就学移行を見据えた引継ぎ、連携体制を強化する。